

R.6年度「中高連携文化教育講演会」

10月9日（水）、本校生徒と神河中学校3年生を対象に講演会が行われました。豊岡にある芸術文化観光専門職大学の学長であり、劇作家、脚本家でもいらっしゃる平田オリザ氏に「わかりあえないことから」という演題でご講演をしていただきました。

平田氏は16歳のころ自転車で世界一周を決行したご経験があり、多くの国の様々な言語・文化があるなかでコミュニケーションをとる難しさと楽しさについて語られました。日本の中高生たちにとって難しいと思っているコミュニケーション力は、実は言語の壁ではないこと。本当の意味でのグローバル・コミュニケーション・スキルは相手の言葉の真意を想像することが大切だということ学びました。



ここで1年1組の大塚朱莉さんの感想の一部を紹介します。

「平田オリザさんの講演の中で『コミュニケーション能力は海外で活動するグローバルスキルではなく、自分の人生を楽しむためのスキル』という言葉が心に響きました。異文化によってコンテキストのズレが生じると会話にズレが起こるそうです。そんな時に相手を受け入れる能力があればお互いにイライラせず楽しく会話が続けられることを知りました。コンピュータは会話に含まれる情報だけを判断材料にするけど、人間は場所やその人の背景などを判断材料にし、会話の本当の意味を考える。相手を思いやる能力は人間に残された最後の能力だと知りました。これから大切にしていきたいです。」

「わかりあえないことから」出発するコミュニケーション。「わかりあえない」中で相手の気持ちを少しでも共有できることを大切に残りの人生を楽しみたいと思います。

